

第 6 期 小金井市地域自立支援協議会 部会活動報告

協議テーマ	平成 30 年度振り返りと、平成 31 年度の課題
開催回・開催日	3 月 7 日
記録担当委員名	生涯発達支援部会 小幡美穂
<p>【協議概要】</p> <p>1、30 年度振り返り</p> <p>①当事者の聞き取りから実際の支援体制につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> * 発達障害のある中学生の事例 * 車いすユーザーの児童に対する支援体制について（昇降機と支援員の配置が実現した） * 今後の聞き取り対象（高次脳機能障害、精神障害、知的障害、聴覚障害、視覚障害、発達障害など） <p>②条例について</p> <ul style="list-style-type: none"> * 一般向けパンフレットを、市民を交えたワーキングチームで作成 * 障害者週間シンポジウムで条例についての講演と市民参加のパネルディスカッションを企画 * 障害平等研修（DET）の実施提案 <p>③ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> * 学校における人的支援の現状について * 放課後デイサービスの状況について <p>2、来年度の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療的ケア児の支援体制について ②学校での人的支援のニーズについて ③自立支援協議会の体制について…当事者の参加を増やすにはどうすれば良いか ④合理的配慮好事例集の作成について ⑤逐条解説の作成について ⑥全体会の進行について <p>【課題となった事項の整理】</p> <p>1、30 年度の振り返り</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 当事者の聞き取りから、ニーズを拾いあげ、実際の支援体制を考えていくことは大切 ② 条例が施行されてからが大切。広報も、関係者だけでなく一般にどう知ってもらうか。 ③ 30 年度から小学校に学習支援員が 1 名配置。特別支援教室も設置され支援体制は整ったといわれるが、現状はどうか？ 放課後デイサービスについては調査が必要。 	

2、来年度の課題について

①医療的ケア児の支援体制を話し合う協議会の設置は検討されているのか？

学校がケアを担うのではなく、外部の医療機関と連携するなど、他の自治体の情報収集が必要。

入院などで長期欠席した児童生徒へのフォローはどうなっているのか。

※休んでいる間のケアが大切。

②特別支援について体制が整ってきたようだが、ニーズに対して十分か？

不登校（発達障害に関わらず、辛さを抱えている児童生徒）への対応はどうなっているのか。また、不登校になってはいないものの、辛さを訴えている、もしくは訴えられず抱え込んでいる児童生徒への支援はどうなるのか。

③当事者の参加の必要性を伝えているが、実際に体制を変えとなると、どのような体制が良いのか。各専門部会から代表者が全体会に出席し、全体会に当事者が参加するといった形など。

④障害者週間シンポジウムで話題として提供された「合理的配慮好事例集」の企画を提案する。取材先はどこか。取材はだれが行うのか。アンケート形式など方法を検討する。

⑤逐条解説は生活支援部会が主になって議題に取り上げているが、他にも防災のパンフレット制作などの課題があるようだ。パンフレットのようなワーキングチームでできることだろうか？

⑥年に4度しかない全体会なので、1年を通して各回主な議題を決めておいた方が効率が良いのではないか。その議題について、全体会前の部会で話し合っておいてもらうなど、対応ができると考える。

【課題解決に向けて】

来年度の課題の③⑤⑥は全体会の課題でもある。（④は部会として提案していく）

特に⑥については、事務局も含めて協議が必要だと考える。

【次回の協議内容予定】

31年度の協議内容について（来年度の課題から）

【次回の開催日程】